

6

高齢者・障害のある人の立場に立った体験

指導のねらい

交通弱者に対してどのように配慮していくべきかを考え、行動を身に付けさせる。

高齢者体験スーツ、目隠し、車いすを利用し交通弱者の体験をすることで、相手の立場を考えた行動を身に付けさせる。

●活動例 学級活動（道徳、保健・体育の時間）（教室使用）

●指導計画のポイント

幼児・高齢者・障害のある人等の交通安全に対する配慮ができるよう、体験学習により指導する。





●事前準備

- ・高齢者体験スーツ・目隠し用マスク・白杖・車いす
- ・自転車

●連携関係機関

警察署、市役所から高齢者や障害者の交通事故や行動特性についての資料や情報の提供を受ける。また、市役所にて高齢者体験スーツ、車いす等を借用する。

●指導の流れ【具体的指導内容】

指導の流れ	留意点／ポイント
教師 ①学習の流れの説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の行動が、いかに不自由かの体験をさせて意味を知らせる。
生徒 ②班分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験する者が複数の場合は、分担を決める。
生徒代表 ③高齢者体験スーツ、目隠し用マスク、車いす等を利用して体験学習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・不自由さを体験させ、相手の立場に立った行動について考えさせる。
教師 ④意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は体力や視覚・聴力が低下していること、障害者は健常者の行動速度とは違うことを気付かせる。 ・班ごとの体験者発表も行う。
教師 ⑤まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者を見かけたときは、自転車の速度を落とす、自転車から降りるといった配慮ある行動の必要性を理解させる。

ワークシート① の回答

問1	イ	問2	ウ	問3	ア
----	---	----	---	----	---